

飛鳥宮跡の活用における四つの視点と、それに基づく活用の展開を以下のように設定する

1) 活用の視点と展開イメージ

前提条件	活用の視点	活用の展開
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">遺跡の保存 歴史的風土・景観の保全</p>	<p>①見る場としての活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 遺構の表示等による飛鳥宮跡の「見える化」 ● 解説サイン等の拡充 ● 周辺整備との連携による視点場の整備
	<p>②学ぶ場としての活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 遺跡ツーリズムの展開 ● わかりやすい情報の提供・発信 ● 飛鳥宮跡について学べる拠点施設の検討
	<p>③体感する場としての活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● VR・AR等により往時の飛鳥宮を体験 ● 「エデュテイメント」の展開 ● 歴史的風土景観の保全及び活用
	<p>④交流する場としての活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● イベントや協働作業を通じた交流の促進 ● 周辺遺跡・施設等との周遊利用の促進 ● 書籍の発行やインターネットを通じた情報発信 ● ホスピタリティの向上

- 飛鳥宮跡への来訪者として、「子ども・若者」「国内旅行者」「外国人（中国・韓国）」「外国人（その他）」が想定できる。今後メニューの詳細を検討する際には、それらのターゲットを念頭において内容の検討を行うものとする。

4 活用・整備のイメージ

2) 活用のメニュー（案）

活用の視点	活用のメニュー（案）	参照P.
①見る場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> □ 遺構の表示等による飛鳥宮跡の「見える化」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮の北東隅、南門付近に塀を復元し、位置や大きさを明示 ・ 往時の建物がイメージでき、イベント等にも活用可能な仮設物を遺構の上に設置 ・ 対象地の公有化、発掘調査の進捗に合わせて、イベント等にも活用可能な「庭」(広場空間)を整備 ・ 「宮殿復元プロジェクト」の展開 □ 解説サイン等の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮跡の内外に、歴史の解説や案内、発掘や地下遺構の様子、万葉古歌や記紀の記述等を記載した解説板を設置 □ 周辺整備との連携による双方向の視点場の整備 	<p>32</p> <p>33</p> <p>34</p> <p>35</p>
②学ぶ場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遺跡ツーリズムの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発掘調査の現地説明会、見学会・体験会など、本物を見て、ふれる機会の提供 ■ わかりやすい情報の提供・発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「明日香の歴史展示」や「飛鳥女史紀行」のストーリーの具体化による、人物を中心に据えた歴史解説を展開 □ 飛鳥宮跡について学べる拠点施設の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 万葉文化館、役場等既存施設の活用 ・ 儀式、祭祀、習俗、衣装、食事などの考証 	<p>28</p> <p>24</p>

2) 活用のメニュー（案）

活用の視点	活用のメニュー（案）	参照P.
③体感する場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> ■ VR・AR等により往時の飛鳥宮を体感 <ul style="list-style-type: none"> ・ VR・AR等のデジタル技術を活用して、往時の飛鳥宮の風景や人々の営みを体感 ・ その場所でしかできないゲームや、歴史の問題を解きながら周遊するアプリ等の開発 ・ アプリの改良・開発によるコンテンツの拡充 ■ 「エデュテイメント」の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びながら学べる展示やアクティビティの開発 ・ 往時の儀式や祭祀等の再現、古代衣装試着体験、古代食体験 □ 歴史的風土・景観の保全及び活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠景を活かすとともに、近景との調和に配慮した修景 ・ 景観を解説するコンテンツの開発 	<p>29</p> <p>30</p> <p>13</p>
④交流する場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> □ イベントや協働作業を通じた交流の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 往時の建物がイメージでき、イベント等にも活用可能な仮設物を遺構の上に設置【再掲】 ・ 「宮殿復元プロジェクト」の展開【再掲】など参加型イベントの開催 ・ 往時の儀式や祭祀等の再現、古代衣装試着体験、古代食体験【再掲】 ・ 既存イベントの会場の一つとしての活用 □ 周辺遺跡・施設等との周遊利用の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 周遊性を高めるための統一的な案内サイン、歩道の整備 ・ 飛鳥京跡苑池への動線の整備 ・ 「明日香の歴史展示」や「飛鳥女史紀行」の周遊ルート具体化 ■ 書籍の発行やインターネットを通じた情報発信 ■ ホスピタリティーの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアガイド等の人材育成 ・ インバウンドへの対応 ・ 宿泊機能の強化、おいしい料理の提供 	<p>33</p> <p>34</p> <p>35</p> <p>26</p>